



席の譲り方の違い



孙 苗
SUN MIAO

国	籍	中国
職	種	プラスチック成形
実習実施者		エーディーエンジニアリング有限会社
監理団体		北陸対外事業協同組合

中国は、昔から敬老愛を提唱しています。バスの中よくラッパが鳴ります。「敬老愛幼は、中華民族の伝統的な美德です。必要な人に席を譲ってください。」だから、今中国は老人に自発的に席を譲るのは、もう社会常識になりました。私は、いつも日本人は素質が高く、礼儀正しい、公德心があると認めています。日本に来てから、地下鉄やバスではお年寄りに席を譲る人がほとんどいません。車の中には白髪の老人が立っていますが、席を譲っていないことが多いです。

去年、私と呉さんと劉さんは金沢に遊びに行きました。バスに乗った時、おばあさんに席を譲りましたが、おばあさんは「まだ若い」と笑顔で言いました。これは私達を驚かせました。その上、日本では60歳の人はまだ自分が若いと思っています。白髪まじりの老人がまだタクシーを運転しているのをよく見ます。80歳の夫婦が、まだレストランを経営しているなど、日本では普通のことです。お年寄りは年齢に関係なく仕事を続けています。お金を稼ぐためではなく、社会に貢献し続けることに、自分の力を感じています。

日本の老人は、年寄りとして見られることに慣れていません。勝手に席を譲ったら、心理的なストレスと迷惑をかけてしまいます。だから、黙認します。彼らは「老人」として見られたくないし、「他人に迷惑をかける」のも嫌います。日本人が一番恐れているのは、他人に迷惑をかけることです。学校では「他人に迷惑をかけないように」と教えられています。私が席を譲ると、周りの人は、おせっかいと思う時があります。自分は年を取っていますが、他の人に負担をかけたくありません。

地下鉄やバスには「優先席」があることも分かりました。ラッシュ時以外は一般的にお年寄りに席をあけています。「郷に入っては郷に従え」、尊重の前提の上で理解するべきです。

日本に来てから、日本の文化を知り、国ごとに異なるマナーがあることがわかりました。他人に迷惑をかけないことは大切です。しかし、「席を譲る」ことに関しては、中国と日本の対応の仕方は違いますが、それぞれの国の社会に調和され、皆から支持されいると思います。